

第2章

位置付けと活用方法

- 1 景観形成ガイドライン（色彩編）の目的
- 2 景観形成ガイドライン（色彩編）の対象
- 3 景観形成ガイドライン（色彩編）の位置付け
- 4 景観形成ガイドライン（色彩編）の構成
- 5 景観形成ガイドライン（色彩編）の活用方法

第2章 位置付けと活用方法

1 景観形成ガイドライン（色彩編）の目的

調布市では、平成26年4月から景観法に基づく調布市景観計画を運用しています。

調布市景観計画において、景観形成重点地区、景観形成推進地区及び一般地域を指定し、それぞれに景観形成基準を定めています。

景観形成ガイドライン（色彩編）は、調布市景観計画で定められた色彩に関する景観形成基準の内容や考え方をわかりやすく解説するとともに、新たに地区ごとに推奨色を定めることなどにより、良好な景観形成を推進していくことを目的としています。また、色彩を活用した景観づくりや、色彩の知識を紹介し、景観に対する意識啓発を図っていくことを目的としています。

2 景観形成ガイドライン（色彩編）の対象

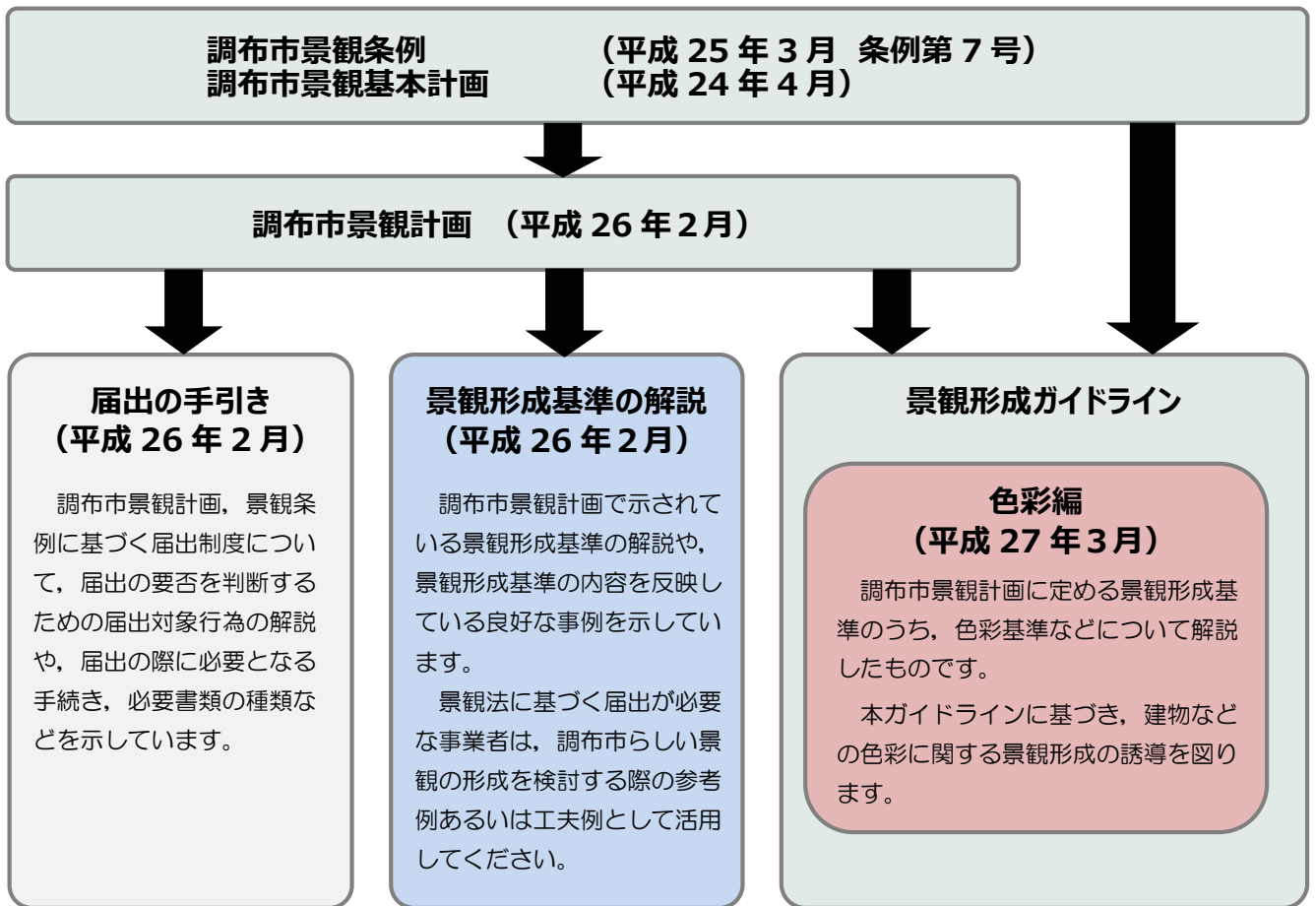
景観形成ガイドライン（色彩編）は、市内で建築物の新築等を行う場合に、次に示すような景観法に基づく届出が義務づけられている建築物等を対象としています。また、届出規模に満たない戸建住宅などを含めた色彩についての考え方も記載しています。

種別	届出対象行為		届出規模		
			景観形成重点地区		一般地域 景観形成推進地区
			深大寺通り周辺	国分寺崖線	
建築物	建築物の新築、増築、改築、移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更		全ての行為	高さ10m以上 延べ面積500㎡以上	高さ20m以上 延べ面積3,000㎡以上
工作物*	工作物の新設、増築、改築、移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	煙突、鉄柱、装飾塔、記念塔、物見塔、その他これらに類するもの	全ての行為	高さ10m以上	高さ20m以上（建築物と一体となって設置されるものは、工作物の高さが10m以上、かつ地盤面から当該工作物の上端までの高さが20m以上）
		擁壁		全てのもの	全てのもの
		昇降機、ウォーターシャフト、コースター、その他これらに類するもの（回転運動遊戯施設も含む）		高さ10m以上 築造面積1,000㎡以上	高さ10m以上 築造面積3,000㎡以上
		製造施設、貯蔵施設、遊戯施設、自動車車庫（建築物であるものを除く）その他これらに類するもの		高さ10m以上 築造面積1,000㎡以上	高さ10m以上 築造面積1,000㎡以上

※工作物とは、建築基準法施行令第138条などに規定されるもののうち、一定のものとしします。

届出対象行為の詳細については「調布市景観計画 届出の手引き」を参照してください。また、都市計画法第12条第1項第4号の市街地再開発事業などについては、東京都景観条例第20条に基づく事前協議が必要となります。

3 景観形成ガイドライン（色彩編）の位置付け



4 景観形成ガイドライン（色彩編）の構成

1	ガイドラインの基本方針	調布市の目指す景観まちづくりに関する基本方針などを示しています。	P1
2	位置付けと活用方法	ガイドラインの目的と位置付け、構成、活用方法などを紹介しています。	P7
3	景観形成における色彩について	建物などの色彩計画を進めるうえで必要な色彩の基礎知識を紹介します。	P11
4	景観計画における色彩基準と推奨色	景観法に基づく届出において遵守すべき色彩基準と地区の特性を踏まえた推奨色について解説します。	P21

5 景観形成ガイドライン（色彩編）の活用方法

私たちが目にする建物などの外観は、地区の景観をつくる一つの要素となります。そのため、建物などの外観の色彩を決める際には、対象の色彩の検討ばかりではなく、街並みとの調和を図りながら、地区の魅力向上に努めることも大切です。また、計画する際は、経年変化や維持管理も考慮し、検討する必要があります。

ここでは、色彩計画を進める上での、ガイドラインの活用例について紹介します。

■建物の色彩計画の進め方

STEP1：地区の特性を把握しましょう

- 調布市景観計画やガイドラインなどを参考に、景観形成や色彩の考え方を理解しましょう。
- 計画するのは街の中ですか？みどりの多い地区ですか？崖線や河川のそばにありますか？「第4章 景観計画における色彩基準と推奨色」などを参考に、計画する地区の現状や色彩基準や推奨色などを確認しましょう。
- 地区の中で、守りたい景観はありますか？調布市景観計画では、小学校区ごとに「景観資源」を紹介しています。参考にしてみましょう。また、周辺住民からの要望がある場合は事前に意向を把握しましょう。



基本計画が
固まる前に
事前相談へ

STEP2：周辺の景観と調和する色使いに配慮しましょう（色彩の基本計画）

- 近隣の建物や景観資源との色彩調和や、街のにぎわいや落ち着きの創出などの観点から、周辺景観への収まりや周辺になじむ色彩の検討をしましょう。



STEP3：建物の役割を確認しましょう

- 計画する建物は、集合住宅ですか？商業ビルですか？どのような役割（用途）をもつものですか？
- 役割（用途）に合う全体のデザインや、色彩イメージを考えましょう。



色彩設計が
固まって来たら
事前協議
行為の届出

STEP4：周辺の景観と調和する色を選びましょう（色彩設計）

- 外装材料の色見本などを集め、色彩や材料の評価を行い、周辺の色彩と調和するよう外壁の基本となる色を選びましょう。また、経年変化が少なく、長持ちする素材や材質を選びましょう。
- 建物全体でのバランスを考えて、外壁のデザインを考えましょう。



STEP5：完成後も適切な維持管理をしましょう

- 時間の变化による退色や汚れなどに配慮し、適切な時期での塗替えなどを行い、維持管理に努めましょう。

